

JIM-NET 便り

2019年9月25日



NEWS

JIM-NET ハウス視察報告

谷山博史 (JIM-NET 顧問) P.2

★現地スタッフから★北イラクのクルディスタンから、こんにちは！ バルザン (JIM-NET アルビル事務所) P.3

JIM-NET ハウスでの活動 Vol.1 ～がんの子どもたちへの教育サポート～ 齊藤亮平 (JIM-NET 海外事業担当) P.4

募金のご協力をよろしくお願い致します！ P.4

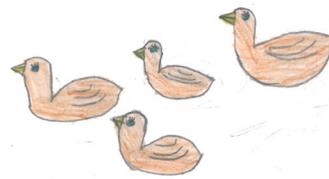
【KAMATA のつばやき】社会的つながりが大事 鎌田 實 (JIM-NET 代表) P.6

チョコ募金 2019キックオフ& JIM-NET15周年記念チャリティーイベント 音楽×チョコレート＝平和 P.8

今年もまもなくチョコ募金始まります！ P.8



JIM-NETハウス 視察報告



谷山博史 (JIM-NET 顧問)

7月21日から27日までJIM-NETのアルビル事務所を顧問として訪問しました。JIM-NETの現場視察は私が理事をしていたとき以来10年ぶりです。

✧子どもたちの希望のランドマーク

今JIM-NETが力を入れているのは、がんの治療を受ける子どもと家族のための総合支援施設の活動です。過酷な治療環境を緩和するために、闘病中の子どもが勉強したり遊んだりできる場所を作る。合わせて付き添いの家族の負担を軽減するために宿泊できる場所を提供する。「JIM-NETハウス」の構想は私が理事をしていたころからありました。それがついにこの5月にオープンしたのです。

JIM-NETハウスは遠くからもひと目で分かる奇抜なデザインでした。このランドマークが子どもたちの希望のランドマークでもあることが実際の活動を通して見えてきます。その一端を報告します。

✧子どもも大人もくつろげる空間

灼熱の戸外(摂氏45度)からハウスに入ると涼しく明るい居心地のよい空間がありました。

プレイルームで15人ほどの子どもたちが元気に飛び跳ねながら遊んでいます。多くは治療を終えた子どもたちで院外から通っているのですが、治療中の子どもも何人かいます。お母さんが子どもを見守りながらくつろいでいます。

小さい教室では算数の授業が行われていました。生徒4人とボランティアの先生。先生の質問に子どもたちがハキハキと答えています。見ている私に気をとられる様子はなくみな真剣そのものです。

✧院内学習を支える先生

院内学習はボランティアの先生方に支えられています。二人の先生にインタビューしました。

一人はボランティアの先生のリーダーで若い女性。父親ががんだったことから、がんの子どもたちにサポートしたいと考えるようになり、学校が病院と提携してボランティア教師を募っていたので応募したそうです。

もうひとりの女性教師はこの先生に誘われてここに来るようになったそうです。他にも多くのボランティア教師が働いていました。

✧施設はただ今フル稼働中

ハウス内の施設を一通り見学しました。宿泊室は家族向け2部屋、単身向けのドミトリーが3部屋で合わせて15人が泊まれます。JIM-NETとナナカリー病院が共同で宿泊者の調整をしています。

キッチンと食堂は広くて清潔感があります。トイレも清潔です。トイレがこの清潔さを保ち続けていられれば何かが変わりそうな予感があります。オープンから2ヶ月で施設がフル活用されているのには正直驚き

ました。

活動がうまく回っている理由の一つは、病院側のオーナーシップにあります。JIM-NETは病院と話し合ってすべての計画を作ってきました。またアルビル県保健局や教育局の協力も重要です。ボランティア教師の派遣はこの二者が話し合って決めたのです。施設の運営・管理もアクティビティも、その持続性はJIM-NETとこれらのステークホルダーとの連携の如何にかかっていると言えるでしょう。



JIM-NETで支援してきたハヴァンド（3歳）を訪問（ダラシャクラン難民キャンプ）

★現地スタッフから★ 北イラクのクルディスタンから、こんにちは！

私はバルザン（25歳）です。JIM-NETハウスでソーシャルワーカーとして、働いています。大学では社会福祉を専攻していました。

私の小さい頃の夢は警察官でしたが、JIM-NETでソーシャルワーカーとして働き、人々を助けることが出来、とても幸せです。

私の主なJIM-NETハウスでの仕事は、

• 心理面のサポート

がん患者を、心理面からソーシャルワーカーとしてサポートしています。

例えば子どもたちに勉強を教えたり、一緒に遊んだり、またがん患者とどう向き合えば良いのかを患者家族にアドバイスしています。

• ナナカリ病院とJIM-NETハウス間の調整

ナナカリ病院との調整の中で、JIM-NETハウスに宿泊するがん患者の家族を管理しています。

• 活動の管理

他のスタッフと一緒に、JIM-NETハウスでの活動を管理して登録やます。

• NGO登録や学校で啓もう活動を行うための申請

毎年、JIM-NETを現地政府へ登録する作業や、現地の学校でのがんの啓もう活動を行うための許可を取るための作業をしています。



がんの子どもたちは、治療中は学校に通うことが難しく、補習を行うことが難しい状況です。また先生もがんの子どもを教えるにあたり、多くのトレーニングを受けなくてはなりません。このため、私の夢の一つは、がんの子どもたちのための特別な学校をすることです。

いつもJIM-NETを応援くださり、ありがとうございます。日本の皆さんと顔を合わせることができず、とても残念なのですが、皆さんの支援にスタッフ一同大きな大きな感謝の気持ちをいつも持っています。



JIM-NET ハウスでの活動 vol.1

～がんの子どもたちへの教育サポート～

齊藤亮平 (JIM-NET 海外事業担当)

イラクでは6月から長い夏休みに入り、その期間 JIM-NET ハウスではサマースクールを実施しています。治療のために勉強が遅れてしまった子どもたちに対する教育サポートを行っている JIM-NET ハウスには、夏休み中ということもあり、たくさんの患者の子どもたちやその兄弟がやってきます。

さて、中はどんな様子なんでしょうか？今回はサマースクールの様子を写真と共にお伝えいたします！

上は、ボランティア教員と子どもたちで集合写真。全てのことが初めての試みですが、ボランティア教員は子どもたちのために日々奮闘しています！

A：ボランティア教員たちは個々のレベルに合わせて対応しています。授業後も分からない箇所を必死に学ぶ子どもたち、早く学校に戻れるといいね！



B：プレイルームは子どもたちに大人気！シリア・アフリーンから逃れてきた治療中のムハンマド（5歳）とそのお姉さん、ミニサッカーやトランポリンですぐに周り打ち解けていました。



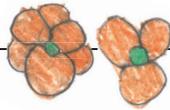
C：1週間に1回の果物おやつタイム。地元支援者の方や農業をやっている患者のご家族から季節の果物が提供されます。子どもたちはこの時間が大好きです！



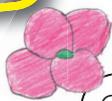
D：「先生、僕プレイルームで遊びたいです！」と授業中に飽き飽きする子どもたち、どこの国も同じですね（笑）



E：治療により体力が落ちたファルザーナ（14歳）は車いすに乗りながら初めて JIM-NET ハウスへ来ました。
「私も元気になってここで勉強したり遊んだりしたいわ」
その言葉が現実となりこの2週間後、彼女は歩けるまでに回復し、歩いて JIM-NET ハウスへとやってきました。



F：アートの時間は絵を描いたり、工作をしたり、歌を歌ったり、おどりを踊ったりと子どもたちが最も好きな時間。
この時間が好きで JIM-NET ハウスに来る子も少なくありません。



G：アートを学ぶ学生が壁に木の絵を描いています。葉の一枚一枚にここに来た子どもたちの名前を書いていくそうで、太い木の上で、しっかり成長してほしいとの願いが込められているそうです。



H：ボランティア教員たちも子どもたちも最初はぎこちなかったのですが、サマースクールを通し信頼関係を築いてきました。治療中のペイシェング（6歳）は先生たちのことが大好きなようです。



I：治療中や治療を終えた子どもたちやその家族は「学校の勉強についていけなくなってしまいました…」と口を揃えます。このような子どもたちをサポートする仕組みがイラクにもできるよう、働きかけていかねばなりません。

募金のご協力をよろしくお願い致します！



JIM-NET の活動は皆様からのご寄付により支えられています。
イラク・シリア・福島の子どもの笑顔を守るため、皆様のお力をお貸しください！



※ゆうちょ銀行

同封の振込用紙で郵便局よりお振込みください。

※クレジットカード決済

ホームページより「寄付をする>寄付のお願い」へお進みください。

※マンスリー募金

毎月決まった金額を継続的にご寄付いただくシステムです。

ホームページより

「寄付をする>マンスリー募金」へお進みください。





「老後は2000万円必要」という報告書がいろいろな問題で物議をかもしましたが、人生100年時代に備えておかなければならないのはお金ではありません。元気で長生きするために重要なのは、「社会的なつながり」だといわれています。趣味や人間関係、地域活動などによる社会的なつながりは、老後を支える大事な資産なのです。

◎最強の85歳を目指そう

「RBG 最強の85歳」というドキュメンタリー映画を見ました。RBGとは、ルース・ベイダー・ギンズバーグの頭文字。弁護士時代から一貫して女性やマイノリティの権利発展に努めてきた彼女は、クリントン政権時代、女性として史上2人目の最高裁判事になりました。トランプ政権下でも権力になびかず、民主主義への愛あふれる言動は、若い世代からも拍手喝采を浴びています。

映画では、彼女がジムで筋力トレーニングをしているところも映されました。85歳になっても精力的に活動できるのは、筋肉を動かして「貯筋」をしていることも関係しているのではないのでしょうか。ぜひ、JIM-NETを支援してくださる方にも、鎌田式スクワットをして頂きたいです。貯金より貯筋です。



◎健康のカギは、社会参加

最近の論文では、「社会的なつながり」が健康に影響を与えることがわかっています。筑波大学の研究チームがまとめた論文によると、①近所づきあいがない ②独居 ③老人会や地域の祭りなど社会活動への参加がない ④経済的に困窮——の4項目のうち、2項目以上当てはまる人は、6年後、半数近くが要支援・要介護状態になったり、死亡していることがわかりました。

また、ジョンズホプキンス大学のリンダ・フリード教授は、生き生きと社会貢献することが、幸せで健康な人生にとって重要と言っています。

◎仕事や趣味で仲間づくりを

ぼくは昨年、初めて紙芝居をつくりました。イソップ童話「アリとキリギリス」を鎌田流の物語にした「かまた先生のアリとキリギリス」（脚本・鎌田実、絵・スズキコージ、童心社）です。この作品が、五山賞特別賞を受賞しました。

その授賞式で、紙芝居ボランティアをしている中高年の人たちと出会いました。学校に出向き、平和や命の大切さを伝える紙芝居を読んで、子どもたちと議論しているとのことでした。すばらしい活動だと思いました（写真左）。



世代を問わず、「つながり」が大切なのだと思います。一人ひとりのつながりだけでなく、組織が成長していくためにもつながりは大事です。

長い間 JIM-NET を支えてくれている会社もあります。バスラの小児がんのセンターの葉の多くは、童話館からの寄付で賄われています。

◎ JIM-NET の強力な応援団

先日、長崎にある「祈りの丘絵本美術館」を訪ねました。大浦天主堂やグラバー園の近くにあり、絵本の原画などを展示しています（写真右と中央）。

その美術館を運営している子どもの本の専門書店「童話館」では、「童話館ぶっくらぶ」という日本最大の絵本の配本サービスを行っています。日本最大の会員がおり、その半数は離れて暮らす祖父母が孫のために会員になっているという。祖父母から自分の宛名が書かれた郵便物が毎月届くのが、子どもたちはとてもうれしいらしい。

小さな子どもに絵本を選ぶのは難しいが、ぶっくらぶでは0～1歳コースから14～15歳コースまでの15コースがあり、年代に合ったすぐれた絵本が配本されます。読み聞かせしているうちに、親のほうも気づかされ、成長させられることが多い内容です。



祈りの丘絵本美術館

◎アートでつながる未来

こうしたさまざまな絵本との出会いは、子どもの好奇心や想像力を育て、学習の基礎となる聞く力を育むことができます。



絵本や紙芝居を通して、いつか JIM-NET も上手に子どもたちに伝えられたらステキだと思っています。イラクの JIM-NET ハウスの中には、アート室があります（写真下左）。白血病の子どもたちが絵を描いています。いつか、JIM-NET と童話館とイラクの子どもたちが、アートでつながるといいなと思っています。

子どもたちの描いた絵がチョコ募金の絵となり、今度は、LUNA SEA および X JAPAN の SUGIZO さんが、その絵を舞台衣装にしてくれました。9月末にはイラクの難民キャンプや JIM-NET ハウスでコンサートもしてくれます。11月2日のチョコ募金キックオフ・イベントにも参加予定して下さいます（次ページ、裏表紙をご覧ください）。

JIM-NET は今、改革真っ最中。たくさんのあたたかな「つながり」をつくっていきます。今まで以上にお力添えをよろしくお願い致します。そして、つながっていきましょう。

鎌田 實 (JIM-NET 代表)



音楽 × チョコレート = 平和

日時：2019年11月2日(土曜日)

18:00(開場) 18:30(開演)

会場：牛込筆筒ホール

(都営地下鉄大江戸線「牛込神楽坂」A1から0分)

(東京メトロ東西線「神楽坂」から徒歩10分)

前売り券：2,000円 当日券：2,500円

小中高大学生：1,000円 未就学児：無料

お問い合わせは

TEL：03-6228-0746 info-jim@jim-net.net

JIM-NETは、イラクの小児がんと白血病の子どもたちへの支援活動を始めて15年目を迎えました。チョコ缶のご紹介の場として親しまれてきたチョコ募金キックオフイベントですが、節目にあたる年の開催ということで、音楽とメッセージが詰まったスペシャルな内容を企画いたしました。

様々なスタイルでJIM-NETとチョコ募金を応援下さり、LUNA SEAおよびX JAPANのメンバーとして世界規模で活躍するミュージシャン、SUGIZO氏を中心に結成された難民キャンプ演奏専門バンド『ババガヌージュ』は、佐藤慧さん(ジャーナリスト)、そしてJIM-NETの海外事業担当・斉藤亮平がメンバーとして活動中です。

この10月、『ババガヌージュ』は、イラクとヨルダンを訪れ、イラクではダラシャクラン難民キャンプとJIM-NETハウスでのライブやワークショップが予定されています。

キックオフでは、第一部で安田菜津紀さん(フォトジャーナリスト)をナビゲーターにお迎えし、『ババガヌージュ』の皆さまが現地での活動報告、そして、湯川れい子さん、鎌田實も加わったクロストークでは、現地の様子や音楽と平和についてもお話しして頂きます。

第二部では、豪華なメンバーからなるゴスペルのシンガー、Singers for Peaceの力強い唄声をお楽しみください!

♪お馴染みとなったアニメ『チョコレートのうた』の英語バージョンが聴けるかもしれません♪

お早目のご予約をお勧めいたします!

下記の振替口座にチケット代をお振込みください。

ご入金確認後、チケットをお送りいたします。

●チケット代お振込み先振込締切日 10/23(水)

郵便振替口座 00540-2-94945 日本イラク医療ネット

※振込用紙に①『11/2 チケット代』②ご希望の枚数をご明記ください。(全座席指定・お申し込み順)

※クレジット決済ご希望の方は、HPよりお申し込み下さい。

今年もまもなくチョコ募金が始まります!

皆さまの温かいご支援のお陰で、チョコ募金も15回目を迎えることができました。15回目の節目ということで、過去14回分のチョコ募金のデザインの中から、人気のあったTOP20から選びました。描いてくれた子どもたちの中には、元気になった子もいれば、残念ながら亡くなってしまった子どももいます。チョコ募金の時期には、今まで絵を描いてくれた子どもたちを、皆さまにご紹介出来たらと考えています。

今年もがん患者への薬の支援や現地の小中学校で

のがんの啓もう活動、難民支援などを継続して行ってまいります。皆さまの温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

